



ニューデリー日本人学校 学校だより

グルモール

JAPANESE SCHOOL, NEW DELHI 2016

<http://www.ndjs.org/>

第11号

平成29年3月17日

武道における残心、そしてもうひとつの残心

校長 榎島 良治

感動の卒業式も終わり、本校の子どもたちが大きなトラブルに巻き込まれることなく、無事に本日の修了式を迎えることができました。大変嬉しく思っております。これも、保護者の皆様にご協力、ご支援いただいたおかげです。誠にありがとうございました。

さて、今回は、私が最近出会い、感動した言葉、“残心”についてお伝えしたいと思います。この言葉とは、「日本人の知らない武士道」という書物において出合いました。

著者は、アレキサンダー・ベネット氏。彼はニュージーランドから来日し、高校生のときから武道を始め、剣道七段、居合道、なぎなた五段等、合わせて十九段の段位をもつ方です。彼について調べてみたところ、彼が講演や書物で残心について述べている記事を見つけましたので紹介いたします。

試合に勝った喜びを選手が表現する。それを見て観客も同じように喜び、興奮する。これぞスポーツ観戦の醍醐味である。しかし、こと武道に関しては事情が異なる。剣道の試合ならば、勝者はガッツポーズをした瞬間、あるいはVサインをした瞬間、もしくは飛び跳ねた瞬間、間違いなく一本を取り消され、負けを言い渡される。勝敗の喜びや悔しさといった感情を表に出すことは「残心がないふるまい」であり、武道精神に反すると判断されるからである。

残心。聞き慣れない言葉だと思うが、長年、武道を続けてきた私は、この残心こそが武士道の真髄、奥義だと考えている。残心は勝負が決してから心のあり方を示す。勝負が決まっても油断をせず、相手のどんな反撃に対しても対応できるような身構えと気構えを常に心がけることを表す。残心は殆どの武道に共通する心身の構えである。たとえば弓道における残身は、矢を射った後も心身ともに構えと集中力を崩さず、目は矢が当たった場所を見据えることとなる。



試合が終わったあとの「残心」は、武道に限らずいろいろな場面で必要だ。たとえば、サッカーなどで、試合が終わる何分か前に1点を入れ、これで勝ちだと思った瞬間に逆転されたなどという事例はいくつもある。これで勝ったという気持ちが、気の弛（ゆる）みを引き起こす。喜びを爆発させるという、感情をあらわにすることが必要なときもある。しかし、何事においても、こころ一番の大事な勝負の場においては違う。「勝って驕（おご）らず、負けて腐らず」なのである。言い換えると、「勝負が決まってから勝負」が最も大切であるということだ。具体的には、「何があっても興奮しない（平常心）。何があっても油断しない。ゆとりをもつ。相手の気持ちを考える。人のせいにしない（自己責任）。」など、その重要な要素なのである。

私は彼が言っている残心と、我々が教育活動において大切としているねらいや目当てと一致する部分が多々あると思っています。本校の子どもたちは幸運なことに、茶道、剣道サークルを代表するサークル活動の指導者からも、残心を教えていただいております。そして、もちろんPTA活動や日々の家庭教育をとおして、保護者の皆様からも。心より感謝申し上げます。

実は、3日後にはインドを離れる身である私の心の中には、全く別の意味での残心が大きく存在しています。それは、もっとここにいて、子どもたちや皆様と一緒にもっと泣き笑いしたかったという思いです。いつかこの日が来ることは覚悟しておりましたが、とても辛いです。しかし、未練の心だけを残したまま皆様とお別れをするのは私らしくありません。そこで、身体は日本に戻りますが、精神の一部はここに置いていき、私がかかわってきた子どもたちのこれからの成長をずっとずっと見守っていきたいと思っています。これが私の言うところの残心です。

最後に、これまでお世話になりました保護者の皆様と皆様のお子様に出会えたこと、そしてたくさんの思い出をいただいたことに深く感謝し、皆様の今後のご活躍を心よりお祈りしております。どこかでまたお会いできる日を楽しみにしております。お元気で！

巣立ちのとき、それぞれの夢に向かって

3月3日(金) 卒業証書授与式

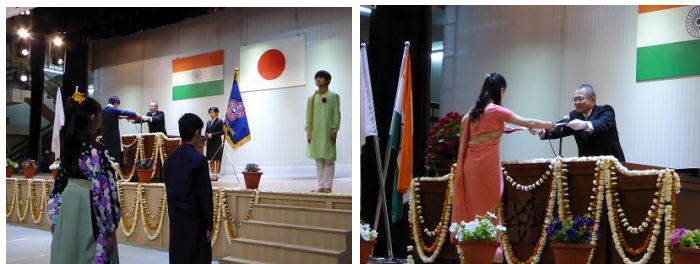
小学部第52回、中学部第34回卒業証書授与式が、本校の体育館を会場に行われました。

在インド日本国大使館次席公使、菊田様をはじめ、来賓の皆様、そして保護者の皆様の前で、小学部29名、中学部15名の子どもたちが、校長より卒業証書を受け取りました。

それぞれの進路に向けて、新たな一歩を踏み出す卒業生は、大きな期待と、親しかった友達と離れる寂しさの両方を感じながら式に臨みました。最後の歌が終わると涙を見せる卒業生の姿から、そうした思いがひしひしと伝わってきました。日本人学校を卒業したことに誇りと自信をもって、それぞれの進路で活躍してくれることを願っています。

保護者の皆様におかれましては、大切に育てられたお子さんの成長をご覧になって、感慨もひとしおのことと思います。壇上で証書を受け取るお子さんの姿から、その成長ぶりを実感されたのではないのでしょうか。ご卒業おめでとうございます。

受験のため式に参加できなかった6名の中学部生徒は、3月8日(水)と14日(火)の2回に分けて、校長室にて卒業証書を受け取りました。



上：3月3日(金)に行われた卒業証書授与式の様子

下：2回に分けて校長室で行われた中学生のための卒業式の様子



卒業式の後、保護者主催の「卒業を祝う会」が盛大に行われました。見事なVTRや楽しい出し物があり、素晴らしい会となりました。

お世話になりました 帰任職員あいさつ

	氏名	職種	本校勤務	転出先
1	槇島 良治	校長	3年	埼玉県
2	増田 美希	教諭	3年	埼玉県
3	榊原 伸	教諭	3年	新潟県
4	坂井 琢雄	教諭	3年	新潟県
5	村木 美奈	教諭	3年	和歌山県

本年度をもって校長先生をはじめとする5名の職員が帰国いたします。この度帰国するのは、平成26年に派遣された同期の職員です。

本校で学ぶ子どもたちのために、熱心に教育活動に取り組んでいました。また、日本での経験を生かし、様々な活動において力を発揮しました。

伝統あるニューデリー日本人学校に勤務できたことを誇りとし、それぞれの新天地で活躍することを期待しています。3年間お疲れ様でした。また、どこかで会いましょう！

クイズを言います。身長 129.3 cm、胸囲 129.3 cm、体重 129.3 kg、2112 年 9 月 3 日、ロボット工場で誕生しタイムマシンに乗ってやってきた、と言えば…？そうです、未来のネコ型ロボット、ドラえもんです。このドラえもんが持っている 4 次元ポケット。実にいろいろなものが出てきますが、その道具の数はなんと今までに 2000 近くもあるのだそうです。この 2000 近くもある道具の中で人気第 1 位に輝いているのは、行きたい所どこでも行ける「どこでもドア」だそうです。さて、本題はここからです。

「どの道を行くかは、あなたがどこに行きたいかによります」と不思議の国のアリスの作者であるルイス・キャロルは言っています。道が一つしかなければ、人として生まれた者はみな、同じ道を歩んでいけばいい。しかし、人生という道は、数限りなくある。そのどの道を歩めばいいのか、誰も決めてくれない。それぞれが自分の道を定め、その方向のドアを押し開けるしかない。また、ベルリン・フィル・ハーモニー管弦楽団の指揮者となった佐渡 裕氏は、こう述べています。「ドアの向こうに何か面白い世界があると思う想像力が大事だ。ドアを開けてみようという勇気をもたないとけない」と。

残念ながら皆さんは、ドラえもんが持っているどこでもドアを持つことはできません。でも、皆さんは「なんでもドア」を持っています。なんでもドアとは、なんでもできるドア、あるいは、なんでもなれるドアです。でもそのドアを開けるために必要なものは、ドアの向こうに何か面白い世界があると思う「想像力」と、ドアを開けてみようという「勇気」なのです。そして、もう一つ大切なことがあります。なんでもドアは、自動ドアではないということです。人生のドアはすべて手動なのです。しかも、自分の手でしか開けられないのです。このことをどうか忘れないでください。

皆さんには、なんでもドアがたくさんあるということ。そして、そのドアは自分にはしか開けられない手動のドアであるということ。どうかこれから出会う多くのドアを自分の手で開けていってください。これが私から児童生徒へのラストメッセージです。

植島 良治



3 年間ありがとうございました。日本では経験しなかった新しいことに、たくさん挑戦させていただいた 3 年間でした。

インドという異国の地で暮らすということは、色鮮やかな文化を知ることができた面でも、海外で活躍する皆さんや子どもたちに出会えた面でも、教育に携わる者としてとても貴重な経験であったと思います。3 年間、ニューデリー日本人学校で勤務する中で、インドという国が大好きになりました。この 3 年間の経験をしっかりと自分の糧にして、また日本で一生懸命頑張りたいと思います。

保護者の皆様、至らない面も多々あったと思いますが、いつも温かくご協力いただき、本当にありがとうございました。私は、インドだけでなく、日本人学校の子どもたちも、保護者の皆様も大好きです。またどこかでお会いできることを心から願っています。

増田 美希



子どもたちがフィルミレングの会で、「とうとう私の番がきてしまいました。」というせりふをよく言います。今は、まさにそんな気分です。3 年間の間に、たくさんの子どもたちを見送り、たくさんの子どもたちを迎え入れました。そして、毎年幾人かの先生が帰国し、新しい先生が来ました。いつか自分もその中に入るであろうことは分かっていたのですが、こんなに切なくなるのかと、しみじみと感じています。

私は、日本人学校で教師をしたくてこちらに来ました。日本人学校であれば、どこの国でも良かったのですが、今は、インドで良かったなあとと思っています。

可愛くて素直で元気な子どもたちも、私の失敗を笑顔でフォローしてくださる素敵な保護者の皆様のことも、本当に大好きです。多くの方に支えられた幸せな 3 年間でした。この場をお借りして、改めてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

村木 美奈



**帰任職員の帰国日は
3月20日(月)です。16:00
頃、第3ターミナル出国口
8ゲート付近に集合します。**



「迷いながら ぶつかりながら 揺れながら 過ごした日々を愛しく思う。」

私の大好きな詩です。この詩を読むと、子どもたちと過ごした 3 年間の思い出されます。

1 年目。「心を繋ぐ」を合言葉に取り組んだお囃子。

ニコニコの笑顔とやる気をもった子どもたちと取り組んだインド文化を学んだ 2 年目。

そして 3 年目。一人一輝きをテーマに、様々な活動に取り組みしました。どの児童も chance に challenge し、自分を成長 (change) させ、立派に卒業していきました。

簡単にできたことなど一つもありませんでした。子どもたちと共に悩み、話し合い、アイデアを出し合いながら一緒に乗り越えてきました。その中で保護者の皆様にはたくさん支えていただきました。また、私の家族も皆様の子どもたちと共に生活したこと大きな刺激をもらいました。本当にありがとうございます。

私とのかかわりが、子どもたちのこれからの成長に役に立ったらうれしいです。お世話になりました。

榎原 伸



2014 年 4 月 8 日、まだ春浅い新潟を後にして、インディラガンディー空港に降り立ち、「暑いな、うるさいな」と感じながらも、まだ見ぬ学校での仕事に対して、緊張していたことを懐かしく思い出します。

あれから 3 年が経ちました。かわいい小学生や人懐っこい中学生から親しみを込めた名前で呼ばれた日々、芝生のグラウンド、新旧が共存している校舎、愛おしく感じます。

縁あって日本から遠いこの地で巡り会い、学びあったこの奇跡 (必然なのかもしれませんが) に感謝しています。多くの保護者の皆様にも声をかけていただき、助けていただきました。

春浅い郷里の新潟に帰ります。この地で出会えたこと、経験を糧にして頑張ります。本当に 3 年間の任期期間、お世話になりました。ありがとうございました。

「ニューデリー日本人学校が大好きです！」

坂井 琢雄



3月の転出入				
転 入 0名	卒 業・転 出 79名			
	坂井 理桜 (小1)	大野 佑真 (小4)	大野 僚也 (小6)	石井優里奈 (中3)
	鵜浦 克樹 (小1)	大館 宏倫 (小4)	前田 葵 (小6)	大根 心平 (中3)
	荒野 大知 (小1)	盛岡 真己 (小4)	桂 伊吹 (小6)	加藤 ゆい (中3)
	佐野 瑛冠 (小1)	荒野 百花 (小4)	深沢 彩乃 (小6)	栗田 匠 (中3)
	奥澤 聡美 (小1)	朝倉 史登 (小4)	田邊 洸輔 (小6)	河野 胡春 (中3)
	村木 凜晏 (小2)	石川 摩依 (小4)	大館 修平 (小6)	嶋田 佳苗 (中3)
	福嶋ハンナ (小2)	刈谷 凌 (小4)	仲川 高陽 (小6)	清水 春希 (中3)
	刈谷 沙耶 (小2)	仲川 歩輝 (小4)	鵜浦 基規 (中1)	高橋 航希 (中3)
	穴倉 彩楽 (小2)	山本 悠貴 (小4)	盛岡 勇太 (中1)	竹田 大輝 (中3)
	花房 興 (小2)	坂井翔太郎 (小5)	大根 周平 (中1)	鳥倉 瑠七 (中3)
	中村 莉子 (小2)	鵜浦 柚希 (小5)	井本 大智 (中1)	西森 大基 (中3)
	遠藤 春葵 (小2)	石川 琢巳 (小5)	松本 聡太 (中1)	野呂 海洲 (中3)
	今村 美優 (小2)	岩宮 遥己 (小5)	伊納 爽人 (中1)	濱 貴裕 (中3)
	浅田 颯仁 (小2)	畑 勇輝 (小5)	桂 光輝 (中2)	松田はるか (中3)
	村松 汐里 (小2)	竹田 有輝 (小5)	深沢 周平 (中2)	山内 伸恭 (中3)
	藤田 福 (小3)	浅田 翔真 (小5)	位寄 星 (中2)	山田 彩愛 (中3)
	藤田 幸 (小3)	米澤 桃花 (小5)	石川友美華 (中2)	米澤 鈴音 (中3)
	田邊 翔太 (小3)	位寄 七虹 (小6)	岩宮 樹己 (中2)	森本 遼大 (中3)
	西口 理子 (小3)	栗田ちさと (小6)	秋山 綾人 (中3)	渡部 光英 (中3)
	本村 匠真 (小3)	鳥倉 秀太 (小6)	飯島 颯哉 (中3)	
現在の児童生徒数：計190名				

本年度の教育活動も本日をもって終了いたします。子どもたちは「修了証」を受け取ることができました。子どもたちが学習や運動に取り組み、大きな満足感を味わうことができたのも、保護者の皆様をはじめ、ご協力くださったすべての方々のおかげです。本当にありがとうございました。

たくさん子どもたちがインド離れますが、本校での経験を新しいステージで生かしてほしいと願っています。

新年度は新たな職員を加えて、皆様の期待に応えられるよう取り組んでまいります。これからも変わらぬご支援をいただけますようよろしくお願いいたします。



◆春休みについて◆

3月18日(土)～4月9日(日)

上記の期間は、日本人学校は春休みとなります。図書室の利用は可能ですが、体育館やグラウンド、特別教室の平日の貸し出しは行っておりません。

また、休み中にプール階段の改修等工事を行う予定です。ご来校の際は十分ご注意ください。子どもたちがけがや病気等をせず、楽しいお休みを過ごしてほしいと思います。そして、元気に新年度を迎えることを願っています。

◆始業式の日程について◆



<4月10日(月)>

- 8:20 登校(通常どおり)
- 8:30 着任式
- 8:50 ナマステの会(転入生を迎える会)
- 9:05 1学期始業式
- 10:00 入学式
- 11:15 学級活動・帰りの会
- 11:55 終了・下校
- 12:15 スクールバス発車

- ★ 当日、各教室にて新しい学級の名簿を掲示します。
- ★ 式典には、男子は襟付きで、女子はそれに準ずる服装で参加するようにしてください。